

社会主義は理想なのか  
～「共産党宣言」に学ぶ

第10回 関東ブロック

「宣言」の土台となっている思想とは

今回は『共産党宣言』の土台となっている思想とは何か探ってみたいと思います。1月号で「マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分」について簡単に触れていますが、これはレーニンがマルクスの没後30周年（1913年）を記念して、『啓蒙』という雑誌に発表したものです。『共産党宣言』に貫かれている根本的な思想について完結に述べられています。

先進的な思想の後継者

司会Ⅱ( )で言っている三つの源泉と

はなんでしょうか。

AⅡ19世紀の「ドイツ哲学」「イギリス経済学」「フランス社会主義」です。当時の先進的な思想を代表しています。が、これらが提起し解決できなかった問題に回答を与えたところにもっとも優れた意義があるとレーニンは言っています。

司会Ⅱマルクスは、人類がそれまでに到達した先進的な思想の成果を継承し発展させたということですね。

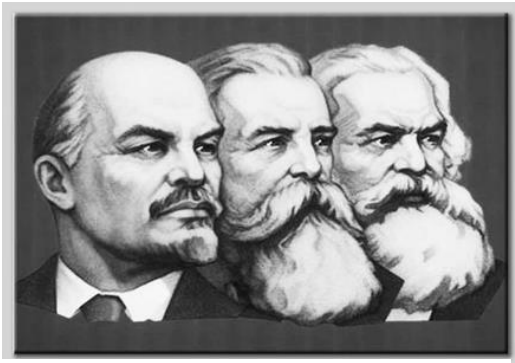
BⅡそうですね。レーニンはまた、マルクスの理論の道にそっていくことによつて、われわれは、いよいよますます

客観的真理に近づくであろう、これとは別のどのような道にそっていても、われわれは、混乱といつわり以外のなものにもいたることができないであろう」と言っています。

司会Ⅱ哲学、経済学、政治学などとどまらず、自然や社会にかかわる全体的、統一的な「世界観」だということですね。

唯物論と弁証法

司会Ⅱ三つの源泉に戻しましょう。最初の「哲学」について、レーニンは、



マルクス主義の巨匠たち  
レーニン、エンゲルス、マルクス

まず「マルクス主義の哲学は唯物論である」と指摘しています。唯物論とはなにか説明されていませんが。  
EⅡ私たちが、自分たちをとりまく世界について考えたとき、いちばん基本的な問題は、自然や物質の存在と、それらについての私たちの意識（思考、

精神）と、どちらがより基本的、根源的かということに分かれます。自然や物質の存在を根源的なものとみなし、私たちの意識をその反映とみなすのが、唯物論の立場です。逆に、意識を根源的なものとみなし、自然や物質を意識や何らかの「精神」から説明するのが観念論です。

司会Ⅱ唯物論が正しいことは誰が見ても明らかですが、レーニンは、「マルクスは十八世紀の唯物論にたちどまらないで、ドイツ古典哲学、とくにヘーゲルの体系の諸成果によって哲学を豊かにした」と指摘しています。

DⅡヘーゲル哲学の主要な成果は、弁証法です。この弁証法を取り入れたということです。

司会Ⅱ弁証法とはなにか説明してください。

BⅡ自然であれ、社会であれ、人間の意識・認識であれ、事物を固定した、個々ばらばらな不変なものとするので

なく、相互に関連し、たえず運動し、変化し、発展するものとしてとらえること——これらが弁証法の基本的見地です。

DⅡレーニンが強調しているのは、第一に、「これまでの歴史観と政治観」は、歴史や政治の変化の根本的な理由を明らかにできなかったこと、第二に、「生産力の発展の結果」として、封建社会から資本主義社会へとように「社会生活の一つの制度から、他の、より高度の制度が発展してくること」を証明したことにあるとしています。

司会Ⅱ哲学の章をまとめるとどうなりますか。

EⅡマルクスの哲学は「完成された哲学的唯物論」であり、人類社会がいままで資本主義社会にとどまるのではなく、その矛盾をのりこえてより高度に発展した次の社会Ⅱ社会主義社会にすすんでいくのだということ、そして労働者階級に人類史的な歴史的使命を

担う階級であるということを目覚める  
「偉大な認識の道具をあたえた」とい  
うのです。

### 古典派経済学を受け継ぐ

司会Ⅱ二つ目の源泉は経済学です。マ  
ルクスは経済的構造（下部構造）が政  
治的構造（上部構造）を規定すること  
を発見してから、もっとも大きな注意  
をこの経済的構造の研究に費やしまし  
たね。当時活躍した有名な経済学者が  
いました。

AⅡイギリスの古典派経済学者、アダ  
ム・スミスやデイヴィッド・リカード  
などです。スミスは、1776年に  
『国富論』を出版し、「労働が富の唯  
一の源泉」であることを指摘するなど、  
古典派経済学の最初の体系的な創設者  
とされています。リカードは、『経済  
学および課税の諸原理』（1817  
年）を著わした人物で、マルクスは、

彼のことを「古典派経済学の完成者」  
と評しています。

### 労働価値説を完成

司会Ⅱそれでは、古典派経済学者によ  
つてはじめてとえられ、マルクスが  
完成させたという「労働価値説」とは、  
どういうものでしょうか。

BⅡ商品は、さまざまな理由で価格が  
上下します。しかし長期的にみれば、  
ある一定水準の価格を中心にして上下  
します。それでは、この平均的な価格  
の水準はなにによって決まるのでしょ  
うか。それを決めるのが商品の価値で  
す。労働価値説は、商品の価値が、そ  
の商品を生産するのに費やされる労働  
の量によって決まるとする経済学説で、  
マルクスによって「社会的必要労働時  
間」、すなわちそれぞれの時代の標準  
的な生産のやり方によって必要とされ  
る平均的な労働時間によって決まるこ

とを明らかにされました。

### 剰余価値の発見

司会Ⅱその分析の中で剰余価値を発見  
したのは大きいですよ。

EⅡ資本は、人間の労働力が商品とな  
るときに成立します。労働者は、自分  
の労働力を一定の価格（賃金）で資本  
家に売り渡します。資本家は、この労  
働者たちを、自分の所有する「土地、  
工場」で、資本家の所有する「労働用  
具」を使って働かせることになります。  
こうやって労働者は、一日働かされる  
のですが、一日の労働時間（労働日）  
のうち、ある時間までは、労働者が  
「自分と家族との生活費」（賃金）に  
相当する価値を生み出すために費やさ  
れます。それを超える残りの時間は、  
資本家のためにただ働きの部分にな  
ります。このただ働きの部分が「資本  
家のために剰余価値」をつくりだし、

## ◆みんなの学習講座



剰余価値の生産には絶対的剰余価値と相対的剰余価値がある

資本家の利潤と富の源泉となります。この剰余価値の解明によって、はじめて資本主義の搾取の秘密が明らかになったということです。

### 資本主義の根本的矛盾

司会IIレーニンは、資本主義の発展が

社会にどのような矛盾をもたらすかという問題を明らかにしていますが、まとめてみてください。

EII一つは資本主義の発展が、資本主義社会における階級矛盾をどのように激化させるかという側面です。資本主義の発展が労働者にたいする「圧迫」を強めること、工業の分野でも農業の分野でも小経営主・小規模生産の衰退、破滅がもたらされること、「生産の無政府性」が拡大し、恐慌や市場の奪い合いをめぐる異常な競争が強まること、「大衆の生活の不安が増大する」ことをあげています。労働と資本のあいだの矛盾だけに視野をかぎらず、社会全体のさまざまな矛盾に注目していることは、いま私たちが日本と世界の経済問題や国民生活をとらえるうえでも、大切な視点だと思えます。

DIIそして、資本主義の発展は「労働者の資本への隷属を増大」させ、同時に、そうした資本の圧迫にたいする

「結合された労働の偉大な力」——階級的に自覚し団結した労働者階級をつくりだします。階級矛盾の激化とともに、それをうちやぶる主体的条件もひろがることを見抜きます。

AIIもう一つは、資本主義の発展にもなつて「生産の社会化」がすすむという側面です。レーニンは、資本主義の発展が、一方では「巨大資本家たちの連合の独占的地位」を生み出すとともに、「生産そのものはますます社会的になつていき、——いく十万、いく百万の労働者が計画的な経済有機体にむすびつけられてゆく」と指摘し、資本主義のもとの生産の社会化に着目します。生産がますます社会的になるにもかかわらず、その生産物はあいかわらず「ひと握りの資本家たち」によって取得されること。エンゲルスはこれを「社会的生産と資本主義的取得の矛盾」として、資本主義の「根本矛盾」と呼びました。

## 空想的社会主義から

### 科学的社会主义へ

司会Ⅱ三つ目の源泉はフランス社会主義です。なぜフランスなのでしょう。BⅡ「自由、平等、友愛」をかかげて絶対王政を倒したのがフランス革命です。資本主義は「自由」の旗をかかげて誕生しました。しかし、その新しい資本主義社会は、労働者に「自由」を保障するどころか、「労働者の抑圧と搾取の新しい制度」であることが、たちどころに明らかになりました。社会主義学説は、この抑圧と搾取の「反映」として登場したのです。これら「初期の社会主義」は、のちに「空想的社会主義」と呼ばれるようになりま

れます。サン・シモン、フーリエは資本主義の矛盾をすべく告発しました。オーエンは、「共產主義的集落」の計画書というべき著書を提出して、ヨーロッパ各国の政府や支配層に支持を訴え、彼らの協力で「共產主義」を実現しようしました。マルクスは、ここから学び発展させたということです。司会Ⅱ彼らの社会主義は「空想的社会主義」だったとレーニンは指摘していますが、なぜ「空想的」といわれるのでしょうか。

CⅡ資本主義を批判する最初の社会主義思想でしたが、資本主義社会をのりこえる道筋、「じつさいの活路」を示すことができなかつたからです。資本主義の害悪がなぜ生まれてくるのかというしくみ——「資本主義のもとでの賃金奴隷制の本質」を説明することも「資本主義の発展法則」を明らかにすることができませんでした。社会主義の実現をめざして資本主義の害悪とた

たかう実際の勢力——「新しい社会の創造者となることのできる社会的勢力」——、すなわち労働者階級の役割を発見することができなかったのです。

### 階級闘争が社会発展の推進力

司会Ⅱ階級闘争それ自体は、マルクスがはじめて発見したというものではありませんよ。

DⅡはい、中世から近代へのヨーロッパの歴史は、ドイツ農民戦争（1524～25年）、イギリス清教徒革命（1642～49年）、フランス革命（1789～93年）、フランス二月革命とドイツ三月革命（1848～49年）など、数多くの革命の記録によって埋められています。近代の自由と民主主義あるいは資本主義の経済活動の自由は、こうした人民のたたかいによつてかちとられたものです。

司会Ⅱマルクスのもつとも優れた点と

## ◆みんなの学習講座



三池闘争は総資本対総労働の階級闘争として闘われた

はなんだったのでしょうか。

EⅡ 「階級闘争があらゆる発展の基礎であり推進力である」という結論を「だれよりもやくここからひきだし、この結論を終始一貫し、この階級闘争の学説を、社会主義の理論の柱にした」ことだと思えます。『共産党宣言』は、「これまでのすべての社会の

歴史は、階級闘争の歴史である」という有名な文言で始まっています。これが『共産党宣言』をつらぬく「根本思想」です。

司会Ⅱ 社会主義の理論の柱にするとはどういうことでしょうか。

DⅡ 一つには、社会や政治を階級闘争の視点からとらえるということだと思えます。

EⅡ そして見えてくるものは、すべての古い制度というものは、時代おくれで腐朽しているようにみえても、いろいろの支配階級の力によって維持されていることがわかります。資本主義制度がどんなに矛盾にみちて、時代遅れで不合理な制度のようにみえたとしても、それは支配階級の力によって維持されているのだから、資本主義制度の害悪をなくし、より高度な新しい社会を築くためには、そのための社会変革の「力」となる階級を、私たちのこの社会のなかに見いだし、これを実際の

社会変革の勢力として組織しなければならぬことが見えてきます。

司会Ⅱ 階級闘争の見地は、マルクスの哲学、経済学、そして階級闘争の学説が労働者階級の解放の理論としてどんな意味をもっているかをあらためて明らかにしたものと いえます。

レーニンは、マルクスの哲学的唯物論だけが、労働者階級に、支配階級のさまざまなイデオロギー的支配（精神的奴隷状態）から抜けだす道をしめしたことで、マルクスの経済理論だけが、資本主義の現状に甘んじることなく社会進歩をきりひらいていく労働者階級の「ほんとうの地位」を明らかにしたことを強調しています。私たちはこのことを忘れずに日頃の資本家階級との闘いに邁進しましょう。

次回は、1917年ロシア革命後の現代社会主義の隆盛、崩壊、そして新たな21世紀の社会主義への試みの分析です。